



学校便り

# 日々新たに

鏡野町立  
鏡野中学校  
令和8年  
3月18日(水)発行  
第12号

学校教育目標 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する

文責 椋代 孝

## 感動の卒業式をありがとう

3月13日(金)、91名の先輩方が鏡野中学校を巣立っていきました。残念ながら、2年生のみの参加になり、1年生は参加することが出来ませんでした。感動的な卒業式になりました。このような卒業式になったのも、在校生皆さんのおかげです。卒業生の門出を祝う素晴らしいパネル、美しい教室の飾り付け、隙のない卒業式の会場準備や教室、玄関の掃除、感動を誘う入退場の音楽、在校生の送辞、在校生の皆さんが卒業生のために一生懸命準備してくれたのおかげで素晴らしい卒業式になりました。本当にありがとうございました。



卒業式の答辞の内容の一部です。  
在校生の皆さん。今日は素敵な会場を準備してくれて、本当にありがとう。これからの皆さんが作る鏡野中学校の新しい歴史を、楽しみにしています。一度きりの中学校生活を全力で駆け抜けてください。

## 4月の予定

- 7日 (火) 着任式・始業式
- 8日 (水) 入学式準備
- 9日 (木) 第11回入学式  
2年生家庭学習日
- 10日 (金) 3年学年P・学級P
- 13日 (月) 1年交通安全教室  
2年学年P・学級P
- 14日 (火) 新入生オリエンテーション  
1年生体験入部
- 15日 (水) 45分×5時間授業 職員会議・校内研修



©鏡野町(みずりん)  
©鏡野町(おゆりん)

- 16日 (木) 50分×5時間授業 専門委員会
- 17日 (金) 身体測定
- 20日 (月) 保護者参観期間(～22日)  
3年英語(3技能)・生徒質問調査
- 21日 (火) 45分×4 + 50分 参観日・PTA理事会
- 22日 (水) 校内研修
- 23日 (木) 3年全国学力(国数)学習状況調査  
1・2年岡山県学習状況調査
- 24日 (金) 1年体験入部終了
- 27日 (月) 1年入部届め切
- 29日 (水) 昭和の日

## 東日本大震災から15年

2011年(平成23年)3月11日は、日本人にとって忘れてはいけない日となりました。皆さんがちょうど生まれた頃だと思えます。



15年前多くの人の命を奪った大震災。その次の日に行われるはずだった「気仙沼市立階上中学校卒業式」は、10日後の3月22日に行われました。しかし、一緒に卒業するはずだった友人や晴れ姿を見てもらうはずだった家族を多くの生徒が失いました。

この答辞「天を恨まず」は、卒業生代表が語った答辞の中の言葉です。わずか15歳前後の少年が歯を食いしばりながら、最後まで立派に読み上げた答辞の言葉は、力強いメッセージとなりました。

私たちに出来ることは、震災の記憶をなくしてはいけないということ、そして、次世代にもつなげていかなければならないということだと思えます。東日本大震災のことを忘れないためにも、この答辞を読んで欲しいと思えます。

私もこの時期になると東日本大震災のことを思い出します。ちょうど、卒業式の準備中だったと思えます。途中でテレビでの映像を見たときは、本当に日本でおこっているのかと信じられない衝撃が走りました。

本校でも、3月11日 14時46分に生徒集会の中で、災害の犠牲になった皆様に哀悼の意を表し、黙祷を捧げました。

私は、卒業式を迎えるたびに、気仙沼市立階上中学校の卒業生代表の言葉を見ようとしています。これからも、決して忘れてはならないことであり、これからの教訓としていかなければいけないと感じています。

### 卒業生代表の言葉

本日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。ちょうど十日前の三月十二日。春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通り慣れたこの学舎を、五十七名揃って巣立つはずでした。前日の十一日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょうか。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに…。階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪ってしまいました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。時計の針は十四時四十六分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、**天を恨まず**、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導、ありがとうございました。先生方が、いかに私たちを思ってくださっていたか、今になってよく分かります。地域の皆さん、これまで様々なご支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩いていく姿を見守っててください。必ず、よき社会人になります。私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成二十三年三月二十二日

第六十四回卒業生代表